

## 第 64 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会②】

日時：2026年2月4日（水）

全体会・部会② 10:00～12:00（予定）

場所：JR 東日本現地会議室

### 次 第

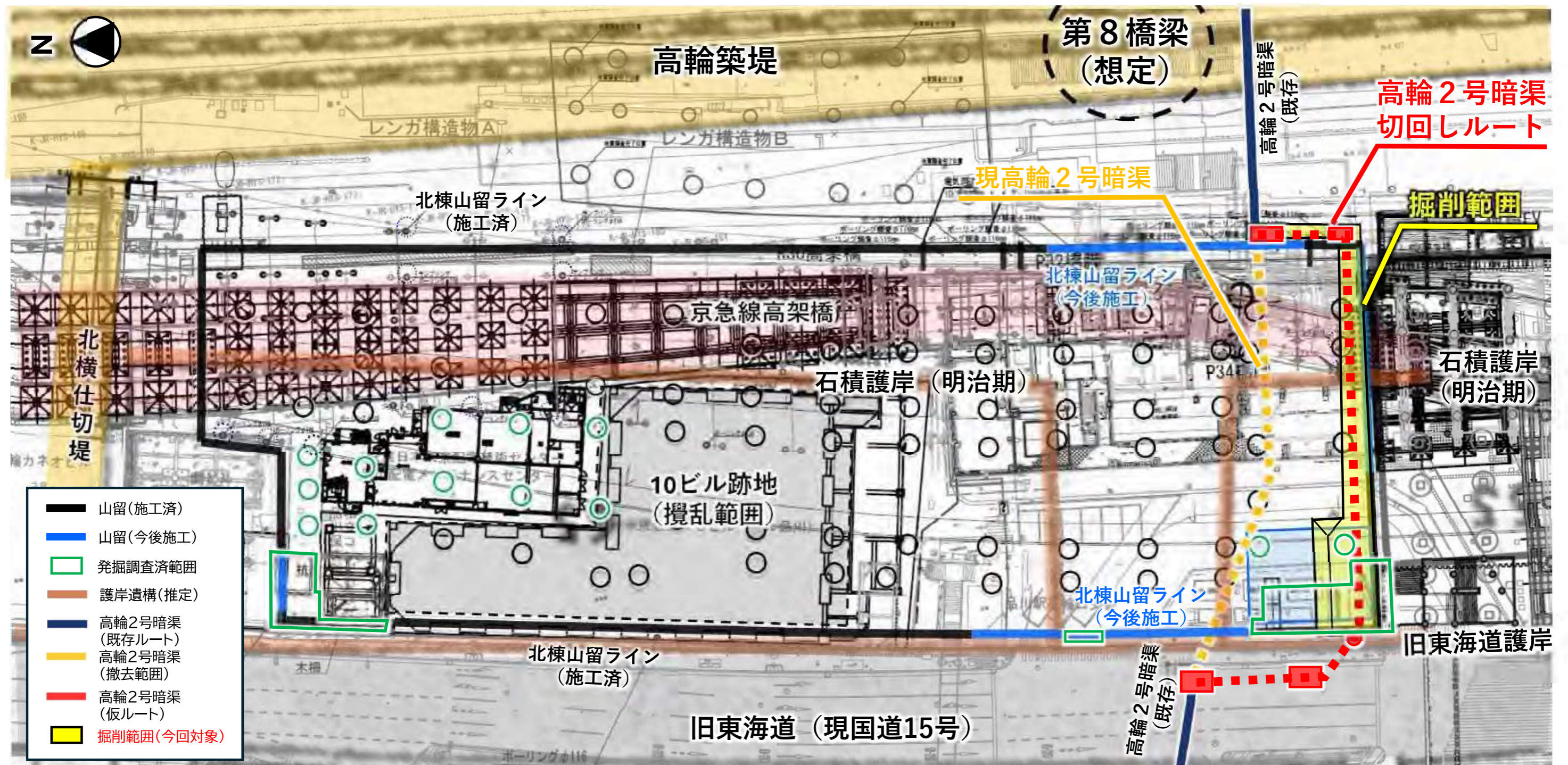
#### 【部会②】

- (1) 開会
  
- (2) 品川駅北棟ビル工事における高輪第2号暗渠の切回し工事計画について 【資料 1】
  
- (3) 北棟仮覆工杭に伴うボーリング調査の成果について 【資料 2】
  
- (4) 京急連立仮受け工事に伴う旧東西自由通路部の調査について 【資料 3】
  
- (5) 京急連立仮受け進捗に伴う既設構造物撤去・駅街区南棟（橋上駅舎）  
躯体施工について 【資料 4】
  
- (6) その他
  
- (7) 閉会

北棟ビルの山留工事及び地下躯体工事を行うために、敷地内を横断する高輪2号暗渠(下水道管)を切回す必要がある。ついでには、事業スケジュール順守のため、以下の工事に着手したい。

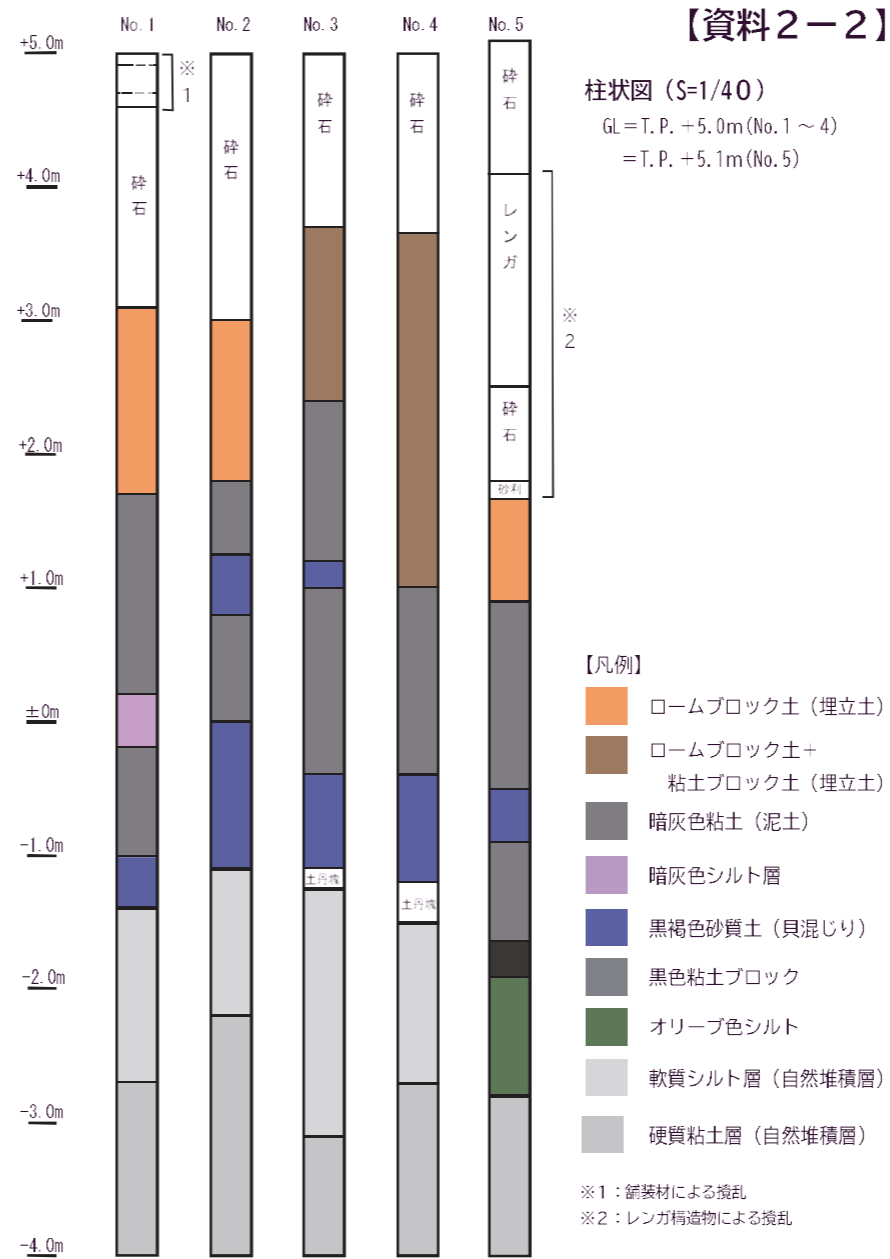
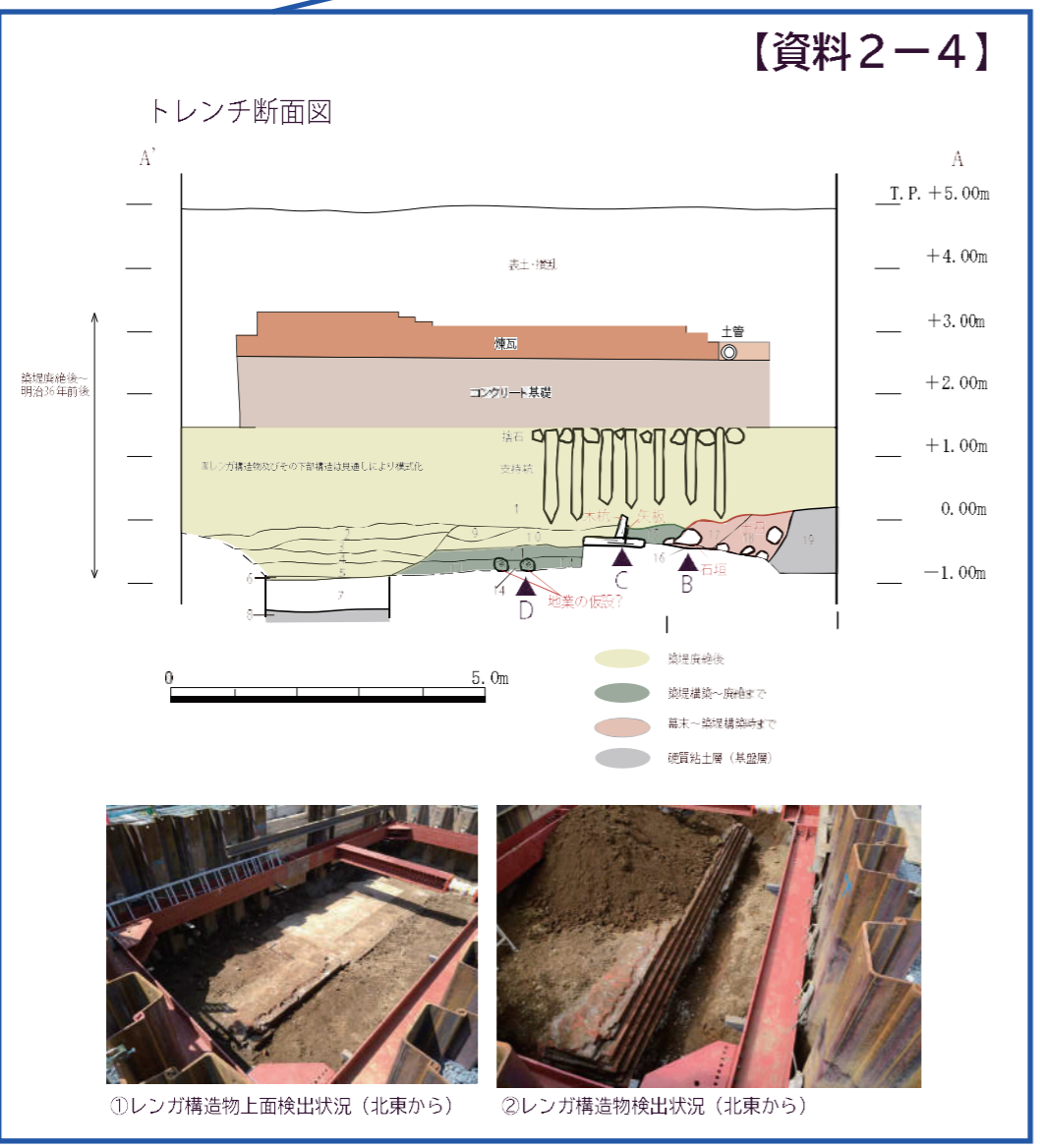
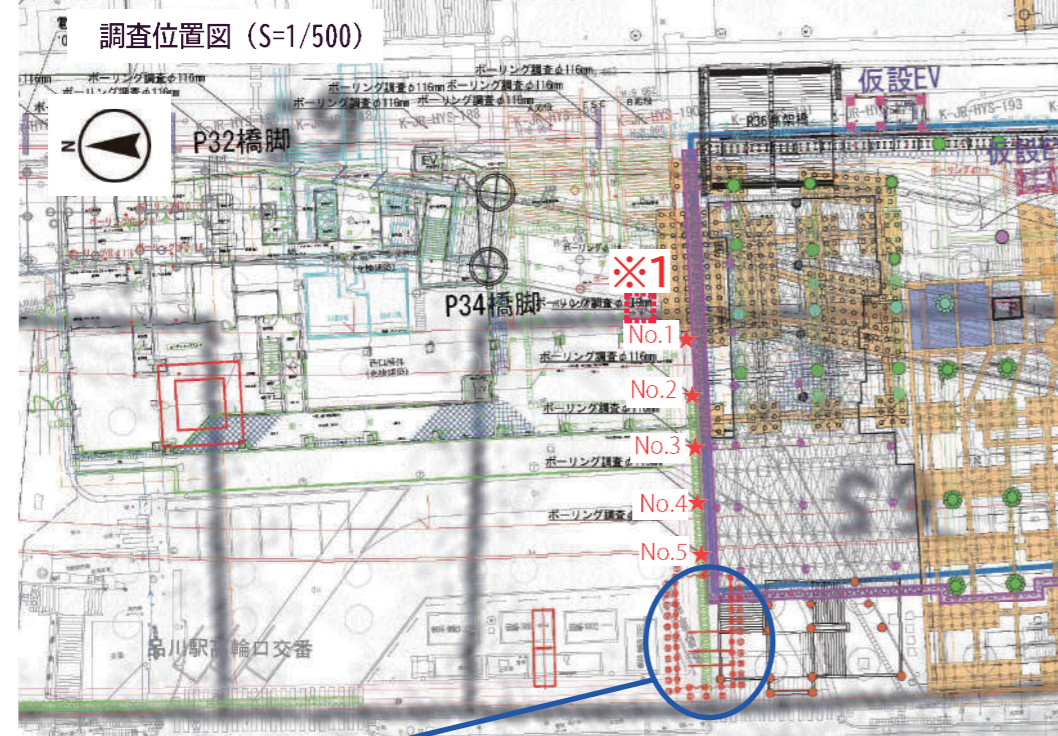
1. 着手工事内容

- ・管路延長 約100m (うち北棟ビル敷地内:約73m)
- ・管径 敷地内南北方向:φ0.5m×2本 敷地内東西方向:φ0.8m
- ・掘削 国道側 深さ 約4.3m (TP+約5.1~約0.8m)  
山手線側 深さ 約2.3m (TP+約2.9~約0.6m)





北棟南端部山留工事に伴うボーリング調査について



【調査所見】

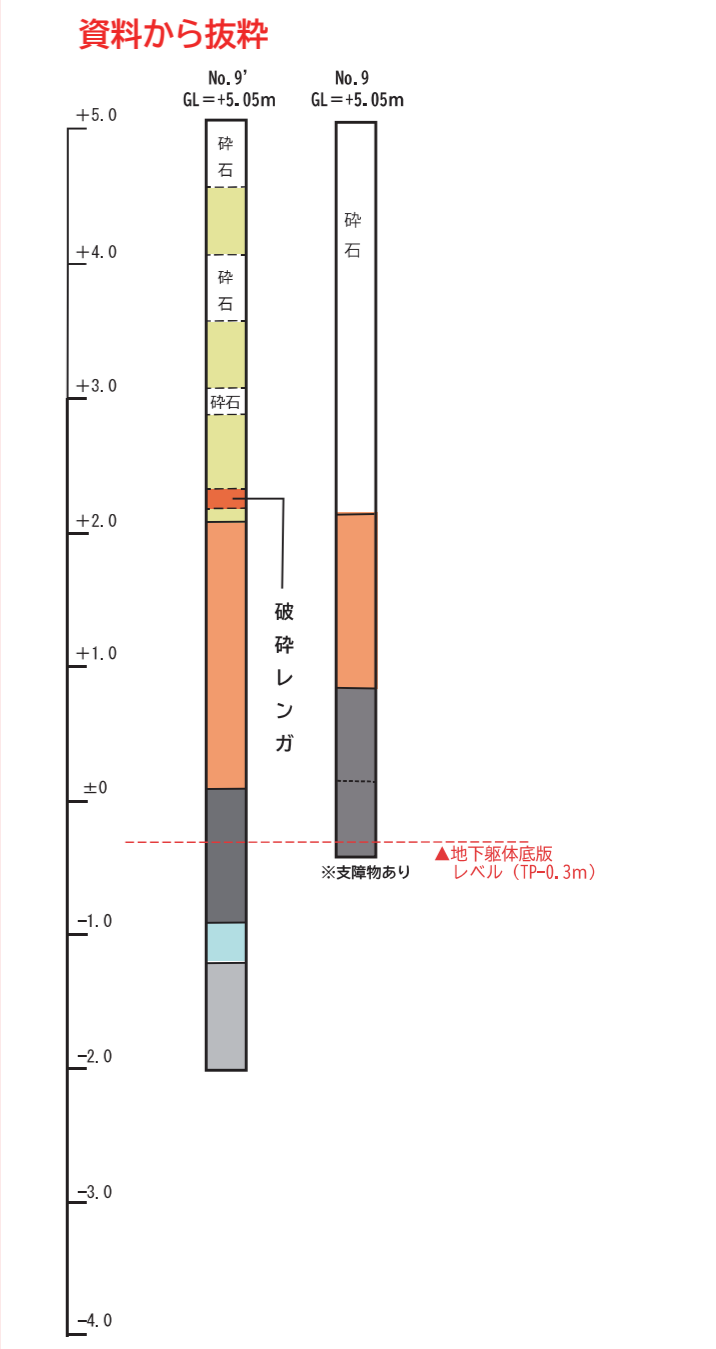
- 自然堆積層の上に黒褐色砂質土 (貝混じり)、暗灰色粘土 (泥土)、埋立土が乗る点は、周辺の調査成果と同じである。
- No. 1 ~ No. 4 では、自然堆積層上面は、T.P. -1.4 ~ -1.5m で確認されているが、No. 5 では著しく低い (T.P. -2.8m)。要因は不明 (旧地形によるもの or 人為的なもの)
- 構造物の一部と見られるもの (木片・石片等) は確認されなかった。

・TP+3.0m付近で埋立土を確認している。

・埋立後に構築された遺構 (溝等) が想定されるため、切り直し工事範囲については本調査を実施する。

・石積護岸 (明治期) に支障する可能性がある箇所 (※1付近) については、施工着手前に確認調査を実施する。

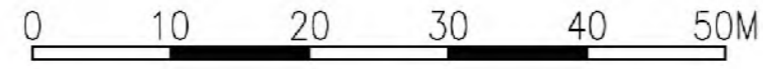
※1 第 48 回検討委員会 (2024.10.2 開催) 資料から抜粋



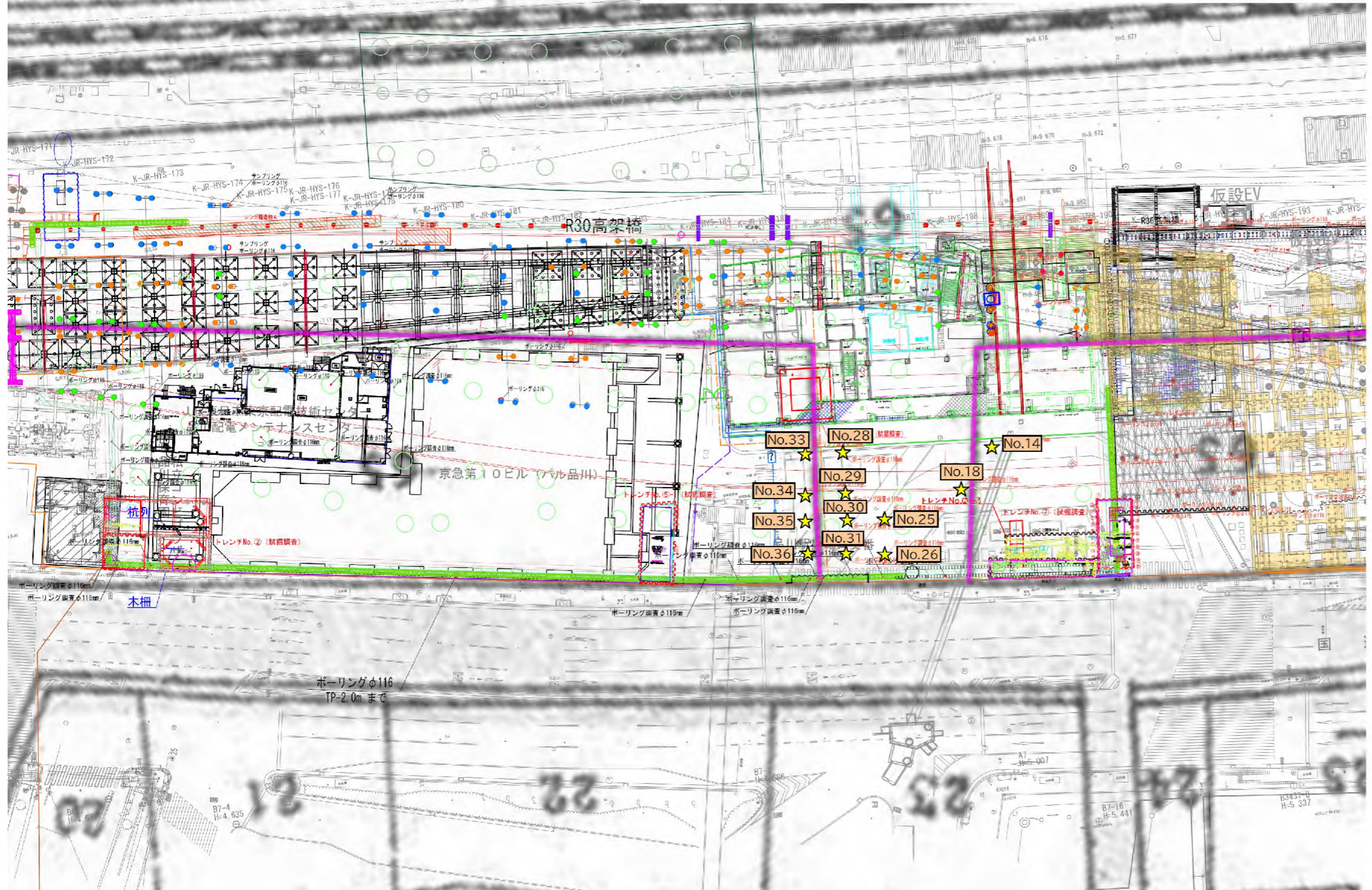
ボーリング柱状図は、以下の資料から転載の上、土層の彩色を統一した。

- No. 9: 第 35 回検討委員会 (2023 年 9 月 6 日開催)
- No. 9': 第 36 回検討委員会 (2023 年 10 月 4 日開催)

# 北棟仮覆工杭に伴うボーリング調査の成果について

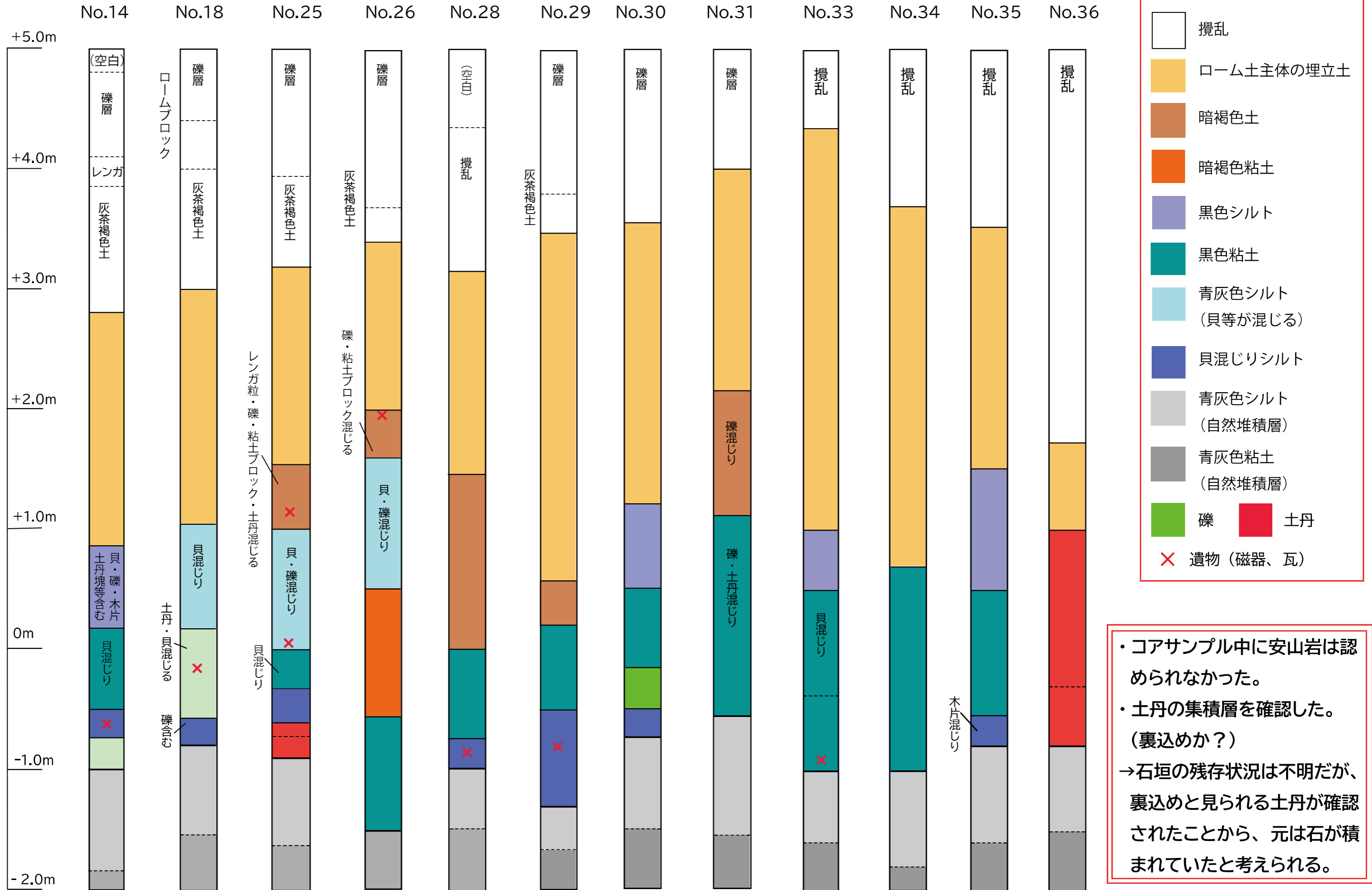


【資料2-1】



※S=1/30  
 ※すべて削孔開始 GL=TP+5.0m

【資料2-2】



No.14



No.18



No.25



No.26



No.28



No.29



No.30



No.31



No.33



No.34

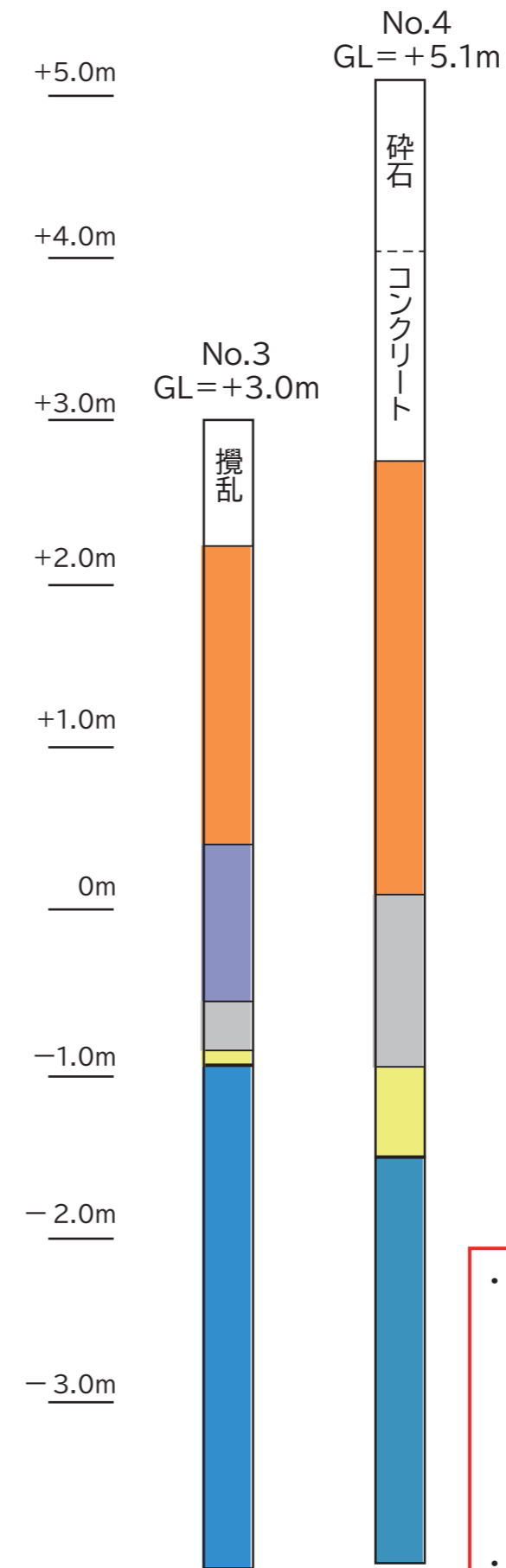
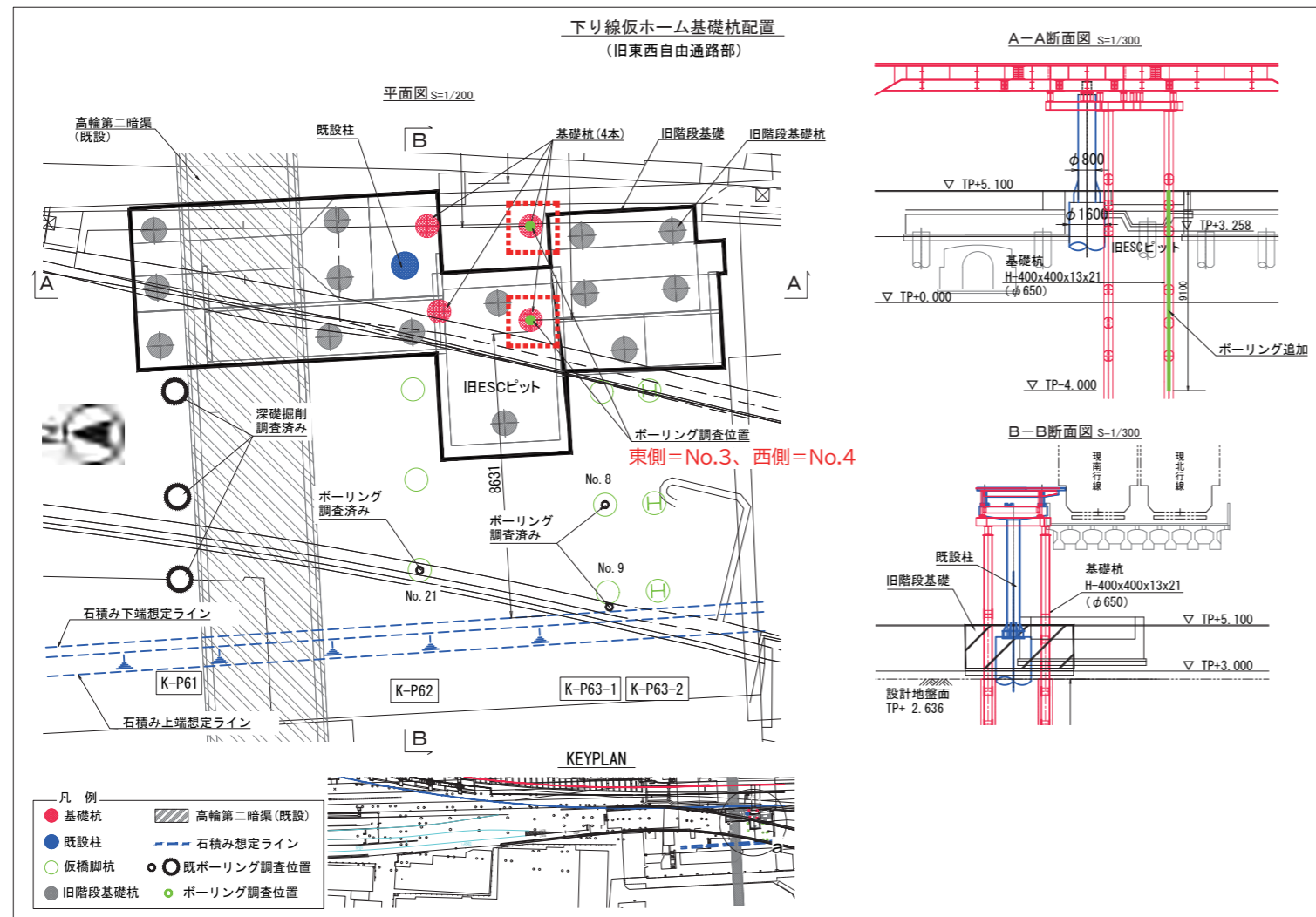


No.35



No.36





No.3



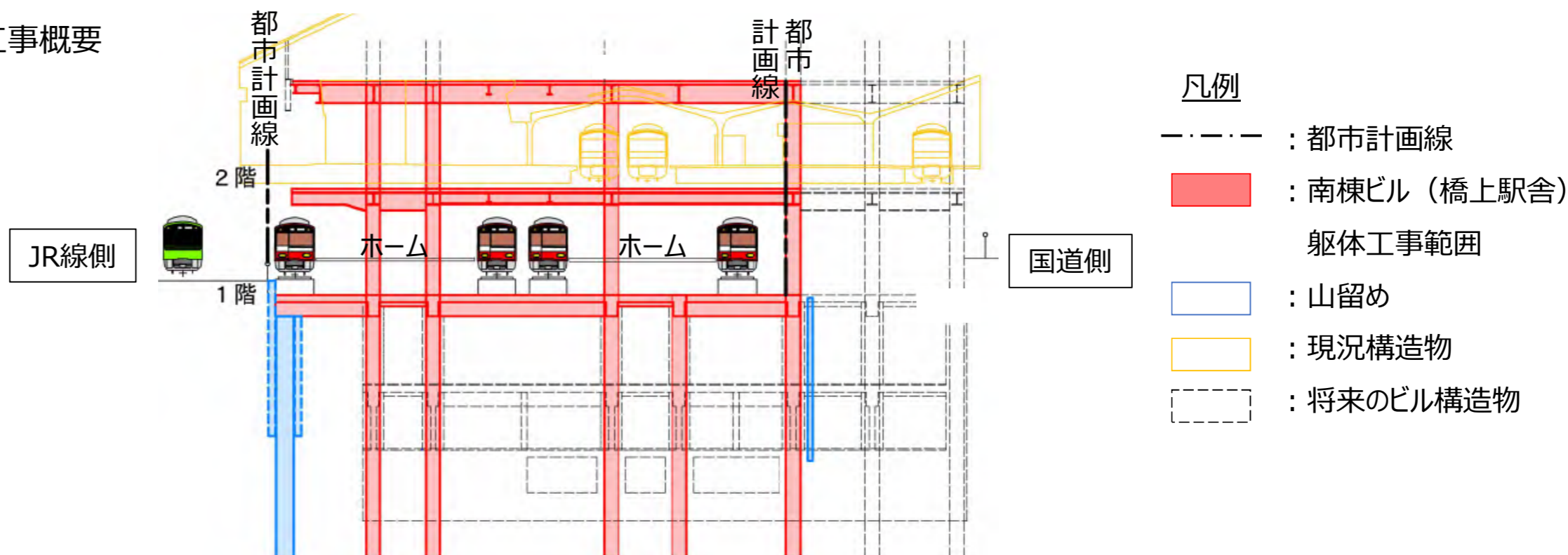
No.4

・ TP 約+2.5m程度まで攪乱、以下ローム主体の埋立土、シルト質もしくは粘質土、貝混じりのシルト層 (水際の堆積)、硬質粘土層 (基盤層) が確認された。

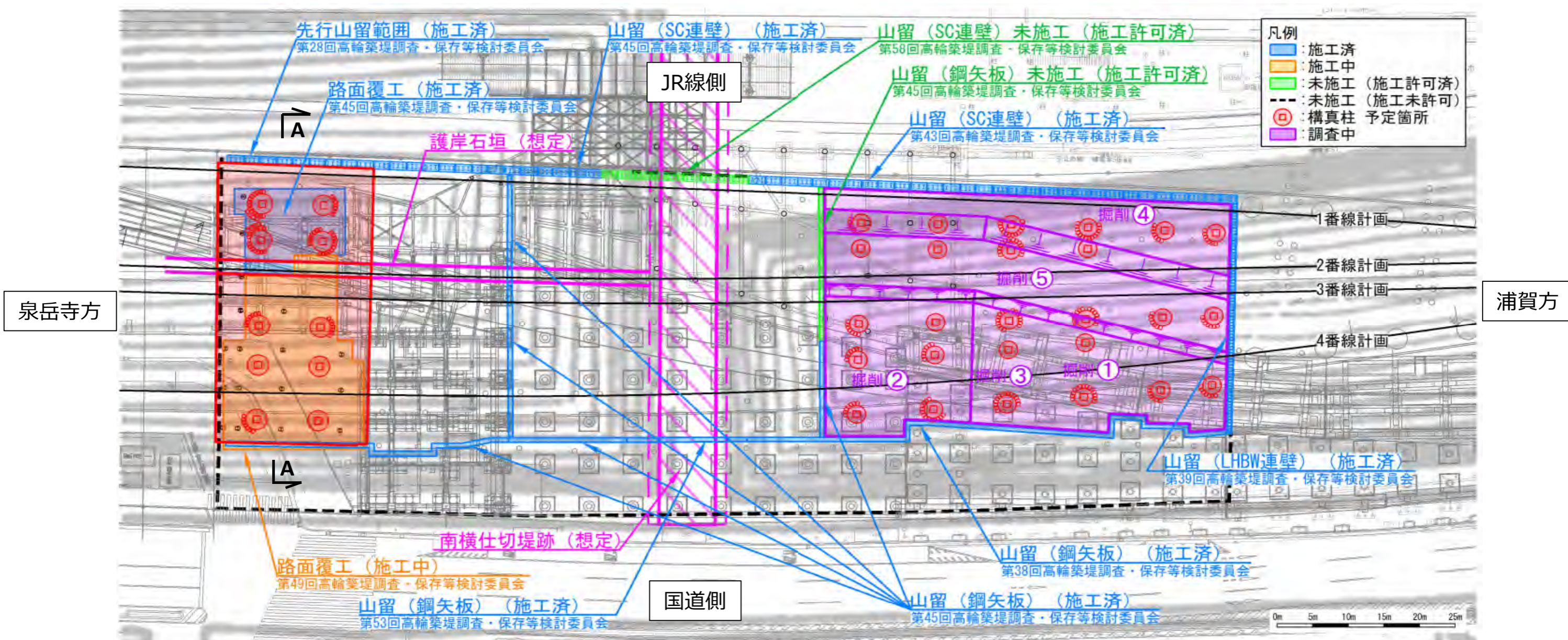
・ 遺物及び構造物の一部と見られる石片、木片等は確認されなかった。

1. 南棟ビル（橋上駅舎）躯体工事概要

京急線連立事業と合わせ、品川駅の駅舎躯体（鉄道施設やコンコースが収まるビル建物）を構築する。

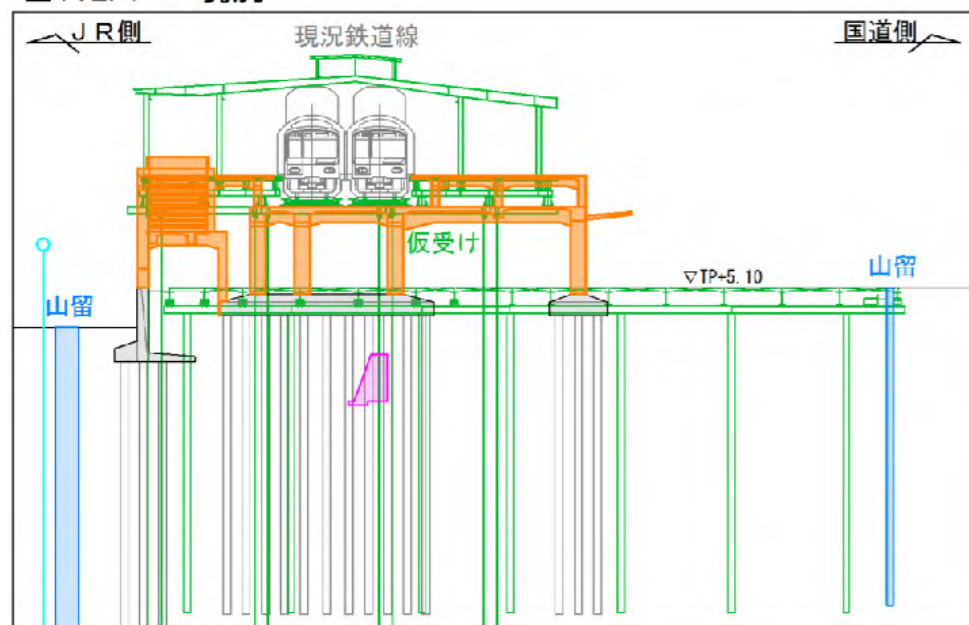


2. 平面図

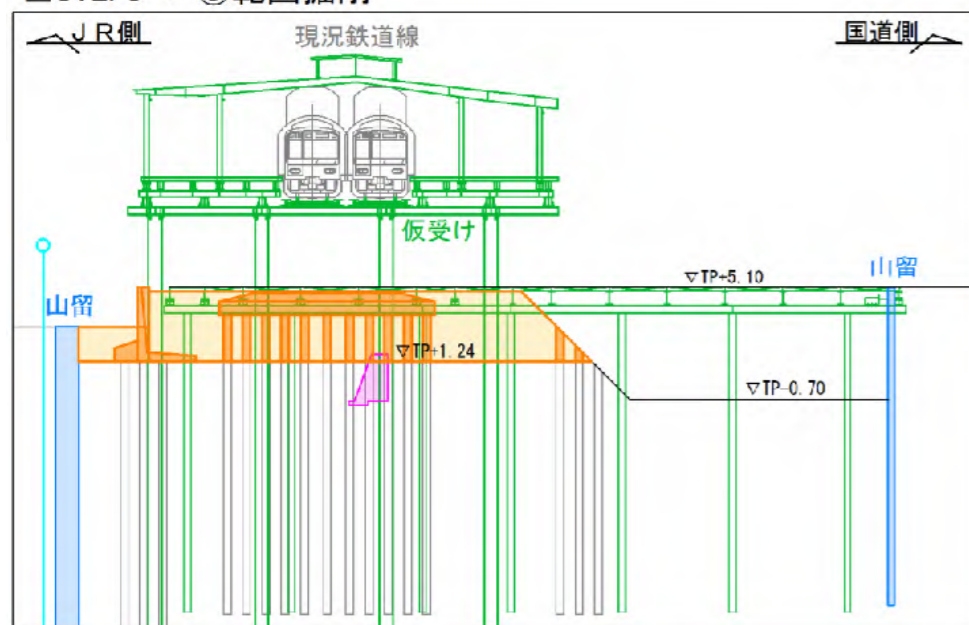


A-A 断面図

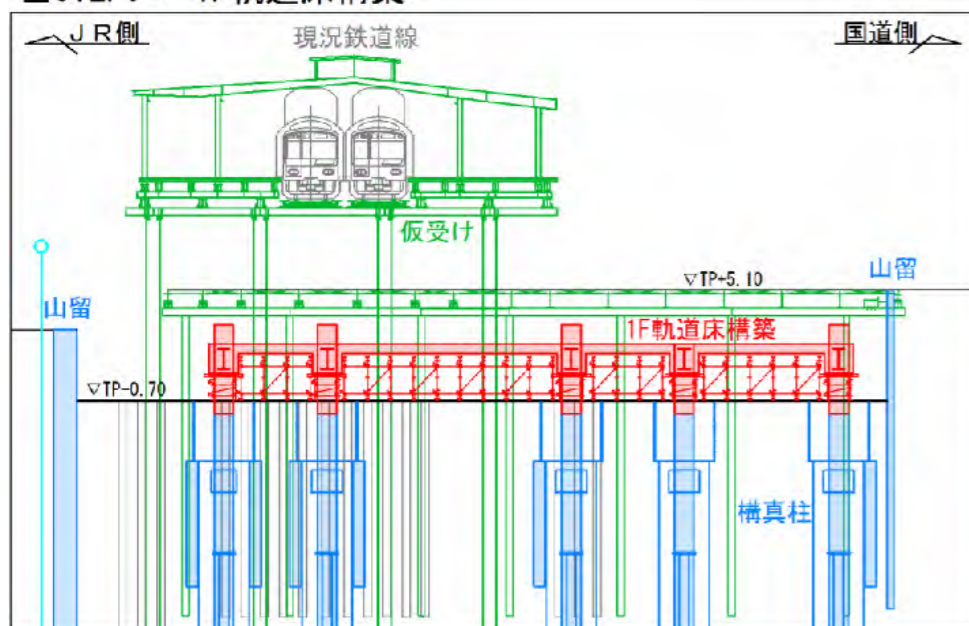
■STEP0 : 現況



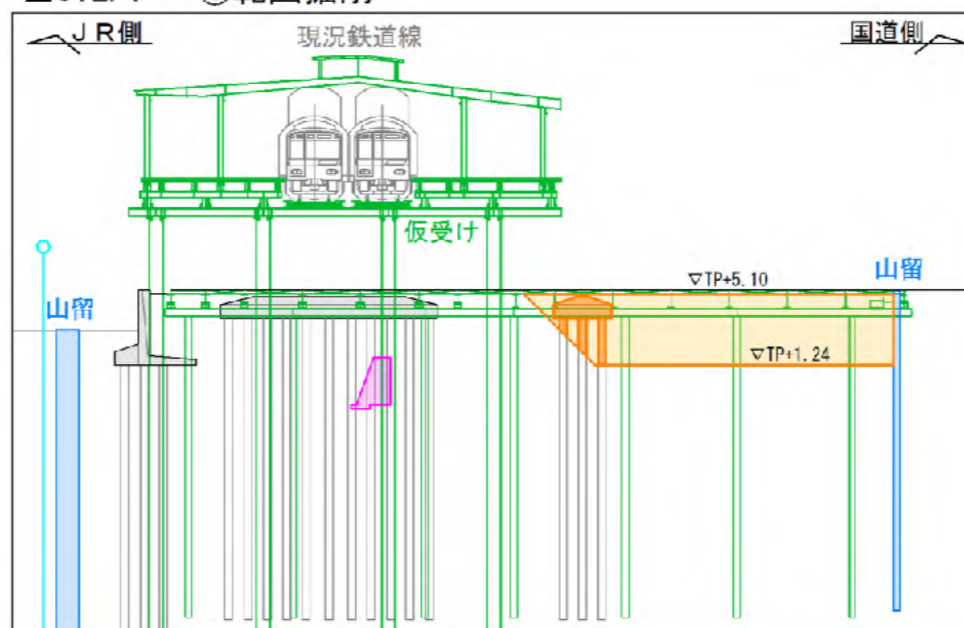
■STEP3 : ③範囲掘削



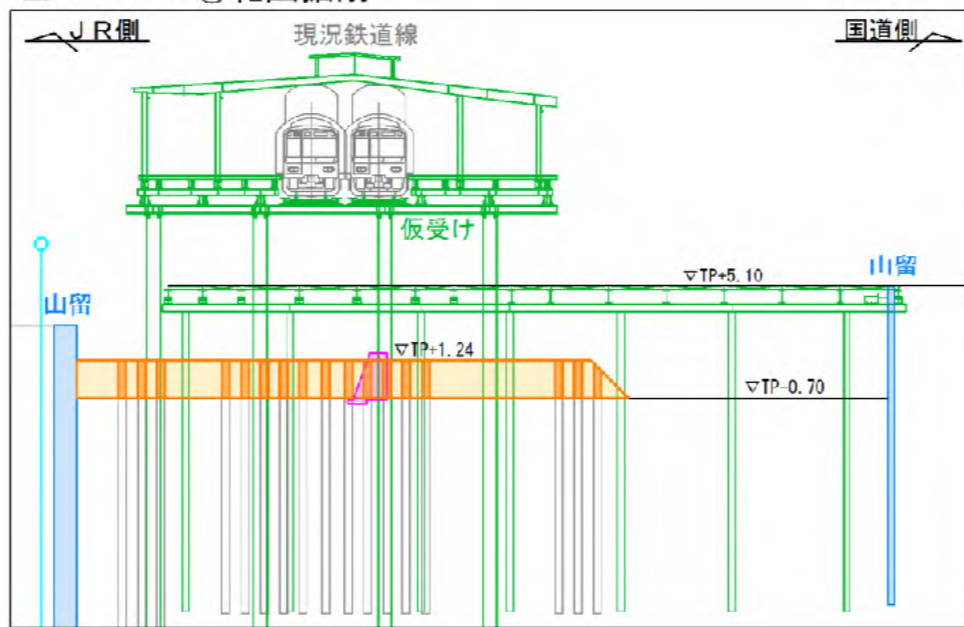
■STEP6 : 1F軌道床構築



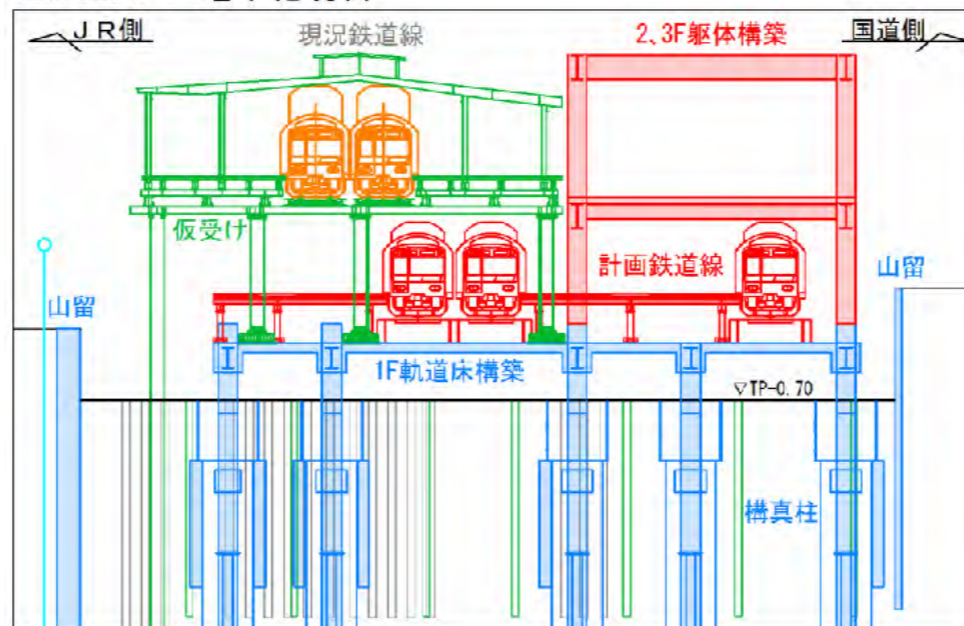
■STEP1 : ①範囲掘削



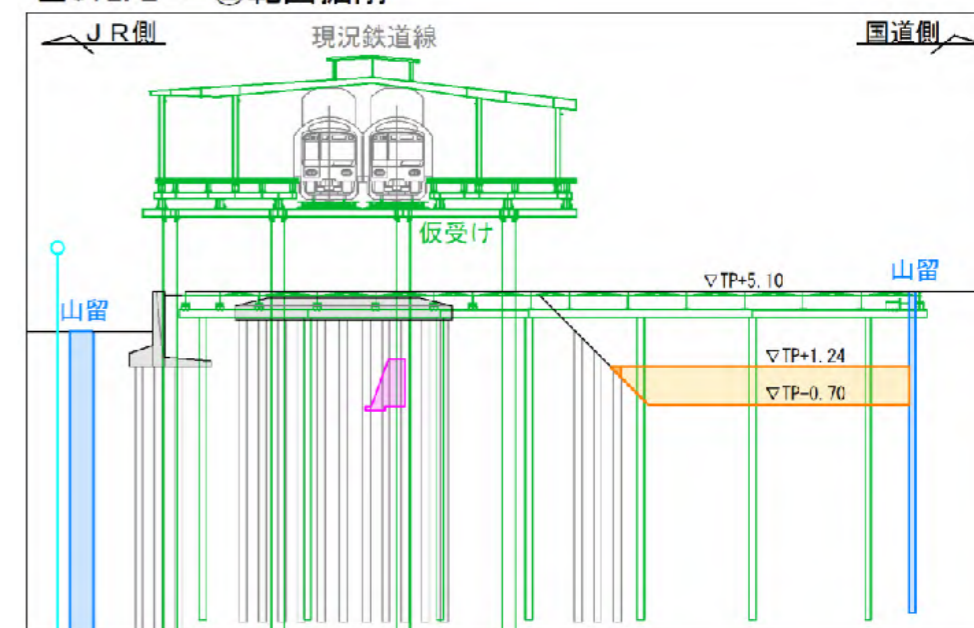
■STEP4 : ④範囲掘削



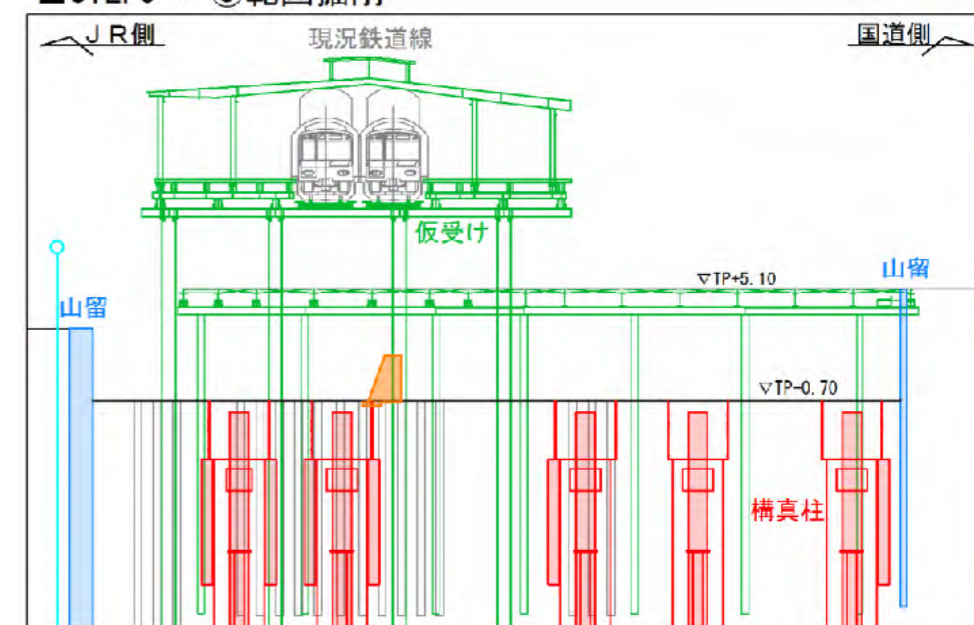
■STEP7 : 地平化切替



■STEP2 : ②範囲掘削



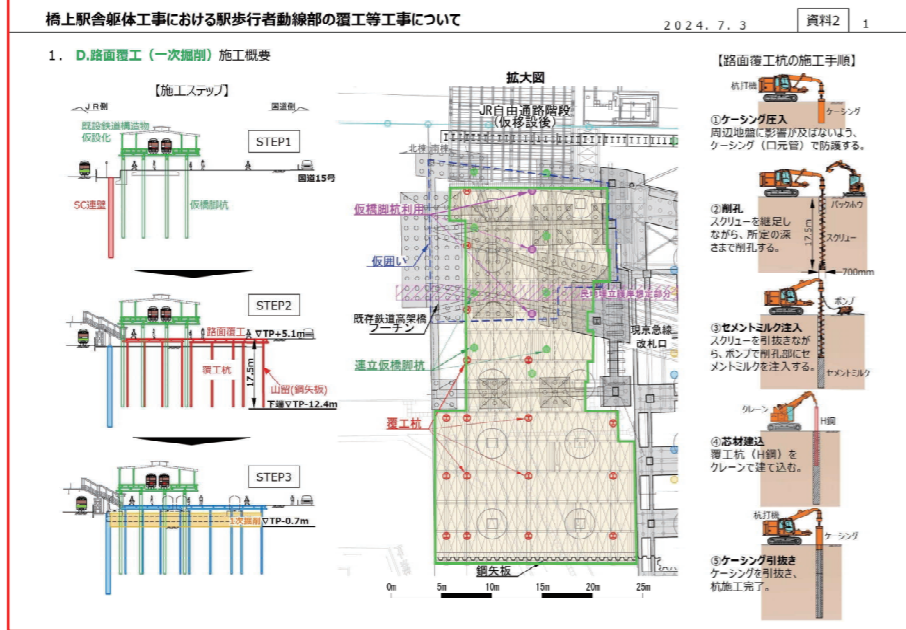
■STEP5 : ⑤範囲掘削



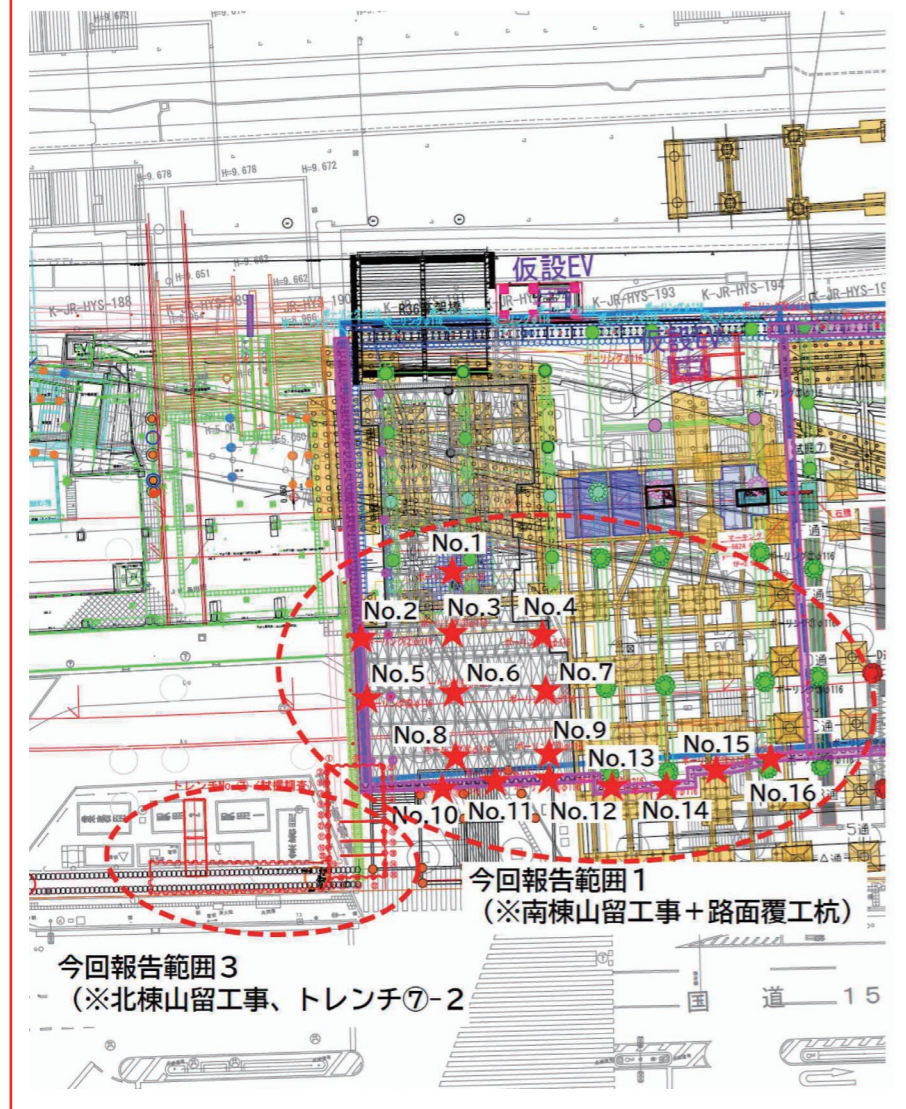
凡例

- : 撤去工・掘削工
- : 仮設工
- : 本設工

第45回検討委員会(2024年7月3日)資料を抜粋して掲載



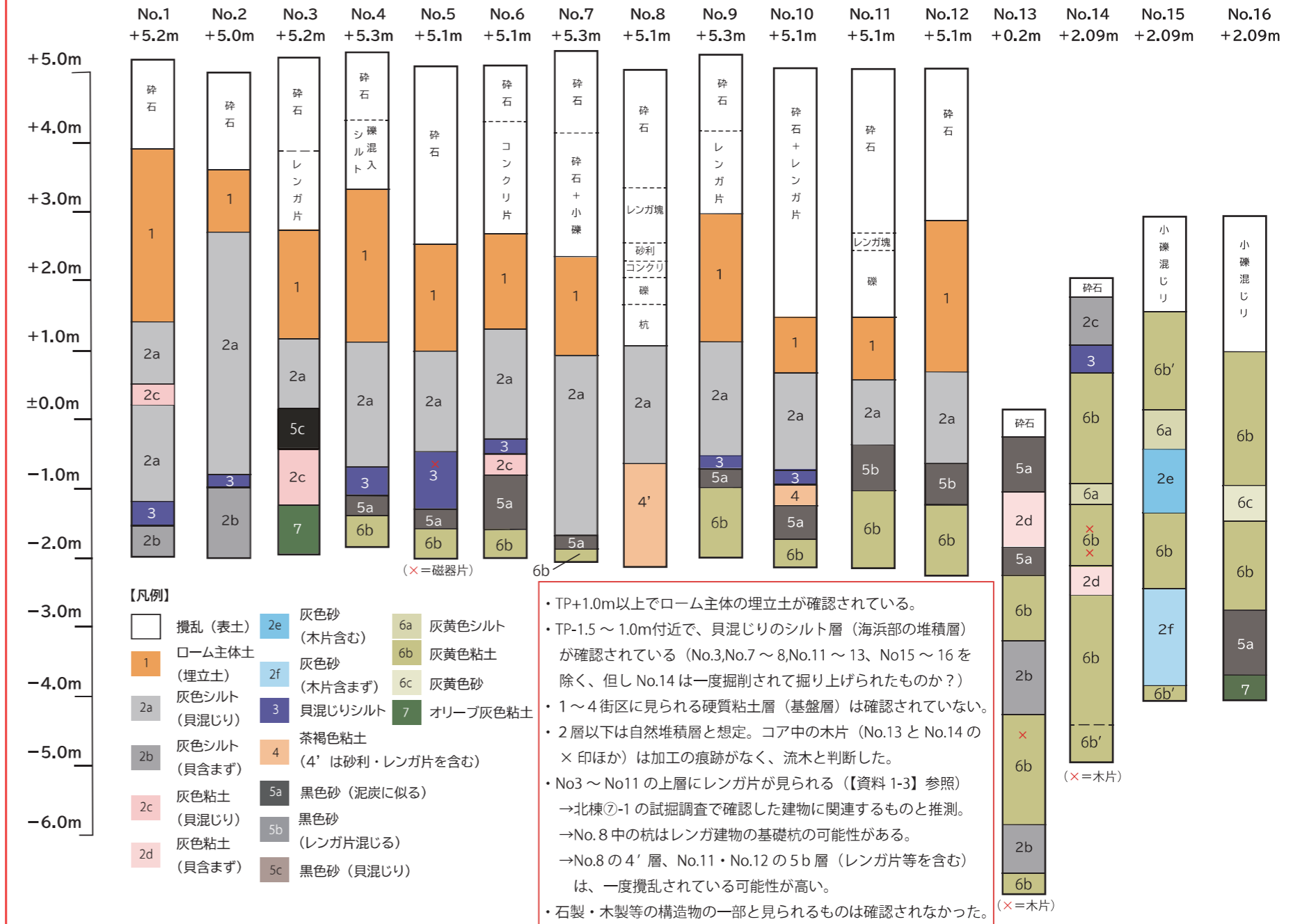
第49回検討委員会(2024年11月6日)資料を抜粋して掲載



第49回検討委員会(2024年11月6日)資料の再掲

南棟山留め+路面覆工杭打設に伴うボーリング調査の成果について (No.1~No.9; 路面覆工杭に伴う調査 / No.10~No.16; 山留めに伴う調査)

【資料2-2】



- ・GL-1m~-2mまでは攪乱を受けているところが多い。
- ・ボーリングコア中に、石製・木製の構造物の一部と見られるものは確認されなかったが、GL-2m~-3m付近でレンガ片を確認している地点がある(No.3、No.8~11)。→レンガ製構造物?
- ・No.8を除き、ローム土を主体とする埋立土が確認されていることから、埋立後に構築された遺構(溝等)が確認される可能性がある。
- このことから、遺構確認等の調査を行う。